

今後の札幌のまちづくりを考えるシンポジウム トークセッション 概要



札幌市長
秋元克広



札幌商工会議所 会頭
岩田圭剛氏



札幌大谷大学 教授
梶井祥子氏



クリエイティブ
オフィスキュー
鈴井貴之氏



司会進行

フリーアナウンサー
佐藤麻美さん

寺島実郎氏の基調講演を踏まえ、秋元札幌市長と各界を代表する方々が、札幌のまちづくりに関するトークセッションを行いました。

人口減少・少子高齢化

秋元市長 札幌のまちは人口の自然減、とりわけ生産年齢人口減少が進んでいます。生産年齢人口が減ると、生産力や消費購買力が落ち、地域の経済力が低下します。生産年齢人口減少の原因は主に二つで、出生率の低下と若者の道外転出超過です。これらにどう歯止めをかけるかが札幌の課題です。

岩田氏 コロナにより首都圏への人口転出が緩和されました。コロナ後もこの流れを止めず、転入超過にまでもっていくよう札幌の魅力を高めることが必要と思います。また、食や観光の面で優位性をアピールするとともに、札幌の優れた医療資源を核とした産業集積や、企業支援などの新規ビジネス創出を進めていきたいと考えています。

梶井氏 以前、大学生を対象に地元への意識調査を実施したところ、地元への愛着意識はかなり高いことがわかりました。若者たちは、子供のころから培われた、温かな繋がりの記憶のある場所に戻ってきたいと思っているようです。人と人との繋がり、まちへの愛着意識を子どもの頃から育てていくことが、遠回りのようですが、地元への定着に繋がると感じています。

鈴井氏 「札幌が好き、札幌に戻りたい」という若者は多くいますが、「地元だとできない、東京や大阪に行かないとできない」ということがまだまだ多くあります。そこを大人たちが頑張って色々実践して、「札幌でもやれるんだ」ということを見せていくべきだと思います。

ウィズ・アフターコロナ

岩田氏 外出自粛により在宅勤務が求められ、デジタル化への対応が余儀なくされた一方、ウィズコロナをチャンスと捉え、果敢にチャレンジする企業が札幌にも増えています。歴史のみみると、多くのビジネスが不況の中で生み出されています。二トリの会長も、「不況こそチャンス」といつも言っていますし、不況はいい人材を採用するチャンスともいえます。

梶井氏 コロナ禍において、人と人との繋がりが安全保障となると多くの方が感じたと思います。札幌では各組織が連携していち早く支援を行ったほか、学生や飲食店への支援など、新しい連帯が生まれ、次から次へと支え合いの機運が生まれました。札幌の隠れた力が出たと感じましたね。



鈴井氏 コロナ禍当初は演劇や興行が全て中止になりましたが、その後オンライン配信に切り替えるなどの工夫を行いました。これによって、普段なかなか劇場に足を運べない方にも、配信であれば自宅でご覧いただけるようになりました。コロナをきっかけとして、皆さんが新しいアイデアを駆使し、新しい世界を創ったともいえます。

秋元市長 コロナなどの感染症に加え、自然災害のリスクも高まってきています。今後は、「災害があっても事業継続ができる、災害に強いまち」となることが重要と考えています。自然災害や感染症などから素早く復活できるまちづくりの視点が求められています。

10年後とその先のまちの姿

岩田氏 新幹線札幌駅やバスターミナルなど、大きなプロジェクトが呼び水となって、民間投資が活発化することを期待しています。加えて、丘珠空港機能拡充や高速道路などの2次交通の整備も不可欠です。都心アクセス道路も事業化が見えてきており、医療、観光、物流など多くの面で効果が期待できます。

鈴井氏 北海道新幹線の札幌延伸により、東京との時間短縮はもちろん、東北との交流が深くなることに期待しています。さらに、ニセコ・倶知安もアクセスしやすくなることから、世界の超富裕層が札幌に滞在する機会が増える見込まれます。ただ、札幌は超富裕層を対象とした施設が少ないので、そういう層に特化した観光政策も必要になるのではないのでしょうか。また、札幌在住でも東京の仕事がやりやすくなるので、仕事の可能性が非常に広がりますね。

梶井氏 学生・若者目線で語ると、新幹線はともかく、多くの若者はモビリティに不満を持っています。アンケートでは、「安く移動ができるなら、別に地元を離れなくてもいい」という若者の意見が見られることから、モビリティ環境の改善が、地元定着に繋がる可能性があります。

秋元市長 札幌のまちは、1972年の冬季オリンピックをきっかけに大きく発展しました。それから50年経過し、現在は次のステップに入るスタートラインにあると言えます。さらに2030年はSDGsの目標年次ですので、持続可能な社会に向けて、気候変動に対応する「脱炭素社会」、多様性を尊重する「共生社会」の二つがキーワードになると思います。また、北海道・札幌の魅力である豊かな自然・食・農業をブラッシュアップしていくことも、今後のまちづくりにとって非常に大きな意味があると考えています。



今後のまちづくりへの期待

岩田氏 今、札幌は転換期にあり、このタイミングで今後の方向性を定めるのは非常に重要なことです。先人たちの取り組みにより今の札幌があり、我々はそれを享受してきましたが、今度は我々が次世代を担う若い人たちにそうしたレガシー（業績・遺産）を残していく番です。若い人たちには、まちづくりや人づくり、産業など様々な面で次世代の札幌の基礎作りにも貢献していくという、高い意思を持ってもらえればと思います。

梶井氏 私は共生社会の実現に着目しています。札幌は共生社会の実現に向けた施策を次々打ち出しています。そういう方向性が見えると、市民も後押しされ、共生社会への意識も共有できます。「札幌市まちづくり戦略ビジョン」はそういったことを市民に示すものではないかと思います。新しい戦略ビジョンとともに、市民が問題意識を共有し、一人ひとりが踏み出していけるような希望を感じます。

鈴井氏 札幌の文化について、ハード面では素晴らしいホールができていますが、それを活用する地元の人達が少ない。地元で活躍していく文化的な人材がもっといれば、活力ある、笑顔あふれるまちになる可能性があります。自然、食だけではなく、文化面も豊かだねと言われたいですね。

秋元市長 札幌は多くの魅力や可能性を秘めているまちなので、これらの価値を更に高め、発信していくことが大切です。2022年は市制100周年、政令市移行50周年です。我々の使命は、次の世代に素敵なまちを引き継いでいくことです。様々な取組で世界をリードし、札幌に住みたいという人を増やしていく。市民以外の方にも、札幌に興味をもっていただきたいと思っています。みんなで札幌の新しいビジョンをつくり、そして行動していくことを、お願いしたいと思っています。